

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 25 日

札幌市立 米里小学校

1 米里中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	「自律と共生」	「人間性豊かな生徒の育成」を目指す	A	より生徒の実態を分析・把握したうえで、多面的な視点をもって、今後も重点目標を定めていく。	A	A
今年度の重点	15年間を見据えた児童・生徒の育成を図る	幼・保、小、中の連携を強め、連続性のある教育活動を展開する	A	・中学2年生と保育園の交流会、わくわくポケットでの幼稚園との交流ができた。 ・中学校教師の小学校オリエンテーション、小学生の授業見学、部活動見学、生徒会との交流、合唱コンクール見学などを行い、身近に感じること、小学生の中学校に対する不安軽減に努めた。 ・中学2年生と小学6年生の交流会を行い、子ども同士が直接顔を合わせて、来年度に1年生と3年生となる児童と生徒がコミュニケーションを取ることができた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・地域が一体となり児童・生徒を育成しようという意識があるので、これからも対面を話す場（パートナー校区学校運営協議会、教育機関連絡会等）を大切に、情報共有していける関係を続けてもらいたい。 ・地域としての0歳から15歳までの考え方を、これからもどんどん進めていただきたい。この地域の取組を、他の地域、全市に広げていただきたい。				

2 米里小学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	思い遣りと笑顔あふれる学校	重点項目は、学校の状況や児童の実態からみて適切であり、具体化に向けた取組が行われている。	A	・アンケートでは、保護者、児童共に約9割が肯定的な回答をしているが、全員の笑顔を目指し、更に教育活動の工夫改善を加えていく。職員室、保健室や「ほっとルーム」を児童の居場所として活用する等、教職員が一丸となって、どの子ども安心して通える学校を目指す。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・開校以来大切にしている「思い遣りの心」の育成に、「チーム学校」で自信をもって取り組んでいただきたい。				

人間尊重の教育	校種間の連携	・幼稚園・保育園や中学校との交流を通して、子どもの自尊感情と他人を思いやる心を醸成している。	A	・米里地区の幼稚園・保育園、小学校、中学校が連携して、15年で子どもたちを見守っている。幼稚園・保育園の年長児と5年生の交流では、年下の子に優しく接する姿が見られた。また、6年生が中学校を訪れる機会が数回あり、中学校生活に対する期待感をもつことにつながっている。保護者からもそれぞれの教職員が連携している様子が見えて安心だという声が上がっているため、来年度も継続していく。	A	A
「学ぶ力」の育成	自己決定できる資質・能力	・学校でも家庭でも進んで学習する子どもの姿を目指して、取り組んでいる。	B	・来年度も、1時間の授業を「導入」「展開」「終末」の3つに分けて研究していく。「自己決定できる子」を目指した授業改善を意図し、魅力的な授業を積み重ねることで、児童の学びに対する関心と意欲的な姿勢を高められるようにしていく。家庭学習（くんくん）について、今年度は、新しくクローズドで記録する仕組みを作ったり、代表委員会が全校朝会で紹介したりした。くんくんが米里小学校の文化として根付き、ゆくゆくは宿題がなくても進んで学習をする子を目指していく。	A	A
「豊かな心」の育成	場に応じた適切な言動～挨拶・感謝・返事～	・進んで挨拶し、誰に対しても優しく接する子どもの姿を目指して取り組んでいる。	A	・挨拶については、保護者、児童共に約8割が肯定的な回答をしている。代表委員会による「挨拶運動」と日常的な挨拶指導を継続していくことにより、気持ちの良い挨拶ができる児童が増えている。ただ、学年によっては、自分本位な言動による児童間のトラブルも見受けられるので、相手の気持ちを考えて、丁寧な言葉遣いができるように指導を継続していく。	A	A
「健やかな体」の育成	子どもの運動機会を創出する取組	・授業以外で子どもの運動機会を創出する取組が行われている。	A	・夏はグラウンド等で体を動かす児童が多かったが、冬は外で元気に遊んでいる児童が少なかった。体育委員会が「チューブ滑り集会」を企画したり、体育館を2学年で利用できるようにする等して、運動する機会を増やしてきた。来年度も、オリンピックミュージアムの見学や、プロのスポーツ選手による出前授業など、運動に興味をもてるような行事を企画している。	A	A
いじめ対策	組織的な対応	・いじめ防止と対策を組織的に実行する。	A	・児童アンケートを年3回行っている。児童の聞き取りは、今年度から、放課後時間を確保し丁寧に行った。また、月一回の「いじめ防止対策委員会」において、学年の状況を確認し合うことが、いじめを未然に防ぐことにつながっている。全職員が「いじめは許さない」という態度をしっかりともち、いじめ防止といじめが起きた時の対策を組織的に実行していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・スクールゾーンで信号に立ち、児童全員に声をかけている。8割～9割の児童から、挨拶が返ってくる。学校以外の場所でも、自分の意志で挨拶ができることは素晴らしいと思う。 ・今後の重点を「学ぶ力」において、子どもを育てていただきたい。自分で考え行動するという力を身に付けるくんくんの取組を応援します。				

学校独自に設定する分野						
学校関係者評価委員会による意見						